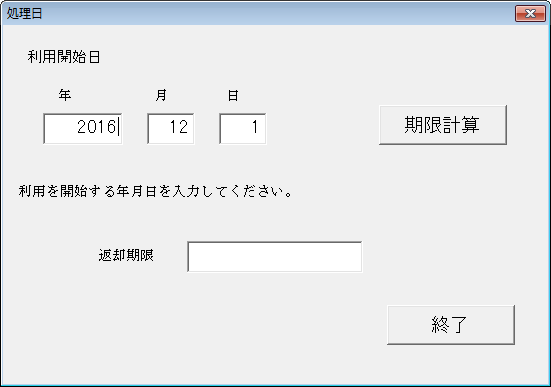
**演習１４（Step14　日付入力）**

　Step14.xlsmの「日付入力」マクロを「返却期限」マクロに訂正してみましょう。ここでは入力された日を「利用開始日」として、本日よりも前の時はエラーメッセージを表示し、開始日から30日後を返却期限としてテキストボックスに表示するマクロに変更します。

　なお、Step14では、テキストボックスが変更されるたびにシリアル値を計算していましたが、そうするとエラーメッセージが出て入力できない場合があるので、ここでは、新たにコマンドボタンを用意し、コマンドボタンが押されたら返却期限を計算するように修正しなさい。

ユーザーフォームは以下のように変更します。



コマンドボタンを追加

ラベルを追加

TextBox4

ラベルを追加

**演習１４（Step14　日付入力）ヒント**

ここでは、Step14.xlsmから変更するという課題となっていますので、その変更点を整理してみましょう。

**（１）ユーザーフォームの変更**

修正前（Step14.xlsm）のユーザーフォームのコントロールを以下のように修正、変更します。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 変更前 | | 変更後 | |
| CommandButton1 | 終了処理 | CommandButton1 | 終了処理 |
| Label1 | 年 | Label1 | 年 |
| Label2 | 月 | Label2 | 月 |
| Label3 | 日 | Label3 | 日 |
| Label4 | 指示文 | Label4 | 内容変更 |
| Label5 | シリアル値 |  | 削除 |
| Label6 | 日付 |  | 削除 |
| TextBox1 | 年 | TextBox1 | 年 |
| TextBox2 | 月 | TextBox2 | 月 |
| TextBox3 | 日 | TextBox3 | 日 |
| TextBox4 | シリアル値 | TextBox4 | 返却期限（日付） |
| TextBox5 | 日付 |  | 削除 |
|  |  | CommandButton2 | 期限計算 |
|  |  | Label7 | 利用開始日 |
|  |  | Label8 | 返却期限 |

したがって、3つのコントロールを削除し、３つのコントロールを追加することになります。ただし、厳密にこの表の通りでなければマクロが作動しないということはありません。以下のように、変更、追加することも可能です。

・Label5を削除するのではなく、「利用開始日」に変更

・Label6を削除するのではなく、「返却期限」に変更

・返却期限（日付）はTextBox4ではなく、TextBox5を利用。この場合にはTextBox4を削除

**（２）プロシージャの変更**

Step14.xlsmのプロシージャには以下があります。これらは以下のように変更することになります。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| プロシージャ | 変更前 | 変更後 |
| 標準プロシージャ | 日付入力 | そのままでも構いませんが、変えるとすれば、名称変更  日付入力→期限計算 |
| UserForm\_Initialize | 配列の初期値設定  現在日の設定 | 変更なし |
| TextBox1\_Change | 年の変更処理 | 削除 |
| TextBox2\_Change | 月の変更処理 | 削除 |
| TextBox3\_Change | 日の変更処理 | 削除 |
| CommandButton1\_Click | 終了処理 | 変更なし |
| CommandButton2\_Click |  | 現在日以降のエラーチェック  返却期限＝現在日+30の計算、表示 |